

令和7年3月25日

令和6年度 東京都立荒川工科高等学校 全日制課程 学校経営報告

東京都立荒川工科高等学校長
坂 田 安 永

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策に対する成果と課題

ア 学習指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 習熟度別学習形態での指導を充実させ、学力の向上を図った。(国語・数学・英語で実施)
- (イ) オンラインでの個に応じたきめ細かな指導を実施
- (ウ) 全教職員90%以上がICT機器を積極的に活用した。
- (エ) 新聞・読書推進週間を教科横断的に実施
- (オ) 「課題研究」では、各科で発表会を実施

【課題】

- (ア) 生徒の実態に即した基礎・基本的な学力の定着
- (イ) 企業と連携した授業(知の連携)の実施
- (ウ) PBLへの取組と全教科での実施
- (エ) 全教科でのオンラインでの学習指導の充実

イ 進路指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 3年間を貫く進路指導計画の確実な実施
- (イ) ICTリーダーとの連携によるオンラインでの企業見学や採用面接の迅速対応
- (ウ) Tokyo P-TECHの企業と連携により、マナーやコミュニケーション能力向上
- (エ) 工業3科が連携し、資格取得、各種検定の合格を目指して補講・補習を実施

【課題】

- (ア) 校外での進路行事の実施。企業や専門学校等の学校外部との連携を強化。
- (イ) オンラインでの企業説明会への参加方法や面接に向けた体制づくり
- (ウ) 企業と連携した進路ガイダンスの充実

ウ 生活指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 生徒の規範意識向上に向けた統一指導の徹底と巡回指導による授業規律確立
- (イ) 始業式や終業式にて適宜、SNSの活用方法について注意喚起
- (ウ) 遅刻、欠席時は、家庭へ欠かさず連絡し、粘り強く指導を実施
- (エ) 教育相談委員会の計画的実施と教育相談センターと連携した校内研修会実現

【課題】

- (ア) チャイム始業・就業とともに、授業準備は休み時間に行うことを徹底
- (イ) セーフティ教室などの学校行事による注意喚起
- (ウ) 特別な支援を必要とする生徒及びその保護者への支援

エ 特別活動・部活動の充実・工夫

【成果】

- (ア) 教科「人間と社会」における通年のボランティア活動の実施
- (イ) 企業と連携した主権者教育の実施
- (ウ) 学年単位で工夫し、球技大会等クラスの親睦を深める特別活動を実施

【課題】

- (ア) 教科「人間と社会」における地域関係団体との連携強化と安全の確保
- (イ) 「知の連携」を活用した学校行事の充実
- (ウ) 部活動の活性化に向けた方策

オ 健康づくりの啓発

【成果】

- (ア) 組織体制の強化

【課題】

- (ア) 生徒の安心・安全の確保
- (イ) 生徒健全育成に向けた保護者との連携強化
- (ウ) 教育相談体制の確立に向けた特別支援コーディネーターとの連携強化

カ 生徒募集活動・学校広報活動の充実・工夫

【成果】

- (ア) 近隣中学校校長会において本校の生徒募集活動・学校広報活動の充実
- (イ) 学校案内の刷新

【課題】

- (ア) 学級減による文化祭の在り方を検討。地域祭りでの魅力発信方法の検討
- (イ) 本校オンライン学習支援方法について受検生やその保護者への理解促進

キ 学校経営・組織体制の改善・充実

【成果】

- (ア) 学級減により、課題解決意識の向上と学校ビジョンの共通理解
- (イ) 経営企画室との連携強化による円滑な事務処理
- (ウ) 体罰 0（いじめ及び体罰防止アンケートの適切な実施）
- (エ) 個人情報紛失・流失事故 0
- (オ) 学校評価アンケートの改善（業者委託）と授業評価アンケートの実施

【課題】

- (ア) 学級減への適切な組織対応
- (イ) 多様化する I C T 関連業務に対応する組織的な対応
- (ウ) 定時制課程との協働体制

(2) 重点目標と方策

ア 安全教育の推進

【成果】

荒川区との防災協定について再検討開始

【課題】

地域の消防署や警察署との連携

イ 学習課題の把握と授業力の向上

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
生徒の基礎学力を把握	定着が不十分な生徒に対して、個に応じたきめ細かな指導	学力不振による中途退学者0名	×：2名
	生徒理解を目的とした各学年ケース会議の実施	各学期1回以上実施	○：3回実施
授業改善の組織体制を構築	I C T機器等を活用した授業の実施	各教科計画的に実施	○：全教科実施
	教師道場、研究員制度、若手教員研修を活用した研究授業や校内研修を実施	各学期1回	○：3回実施
新しい価値を創造する力を育む教育を工夫・改善して推進	「課題研究」「実習」及び「拠点校実習」では、科学的探求力の育成について成果をまとめ、主体的・対話的な深い学びへと繋げる。	発表機会を設定	○：課題研究 各科による発表会実施
学校図書館や読書週間を活用した本に親しむ習慣の確立	教科横断的に授業の中で図書館を活用した調べ学習を実施する。	不読率を50%以下	×：不読率 75%
より良い生き方を主体的に選択して行動する力の育成	地域や関係機関と連携し、教科「人間と社会」の指導内容・方法を工夫改善	各章における発表会の実施	○：全校生徒参加による発表会実施
英会話コミュニケーション能力の育成	基礎的な学習を繰り返し、英語に対する苦手意識を払しょくさせる。	英検受験者10名以上	×：8名受検

ウ キャリア教育の充実と免許・資格の取得・合格

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
生徒一人ひとりの適性に応じた進路希望の実現	生徒一人一人の進路希望を把握する。	進路決定率100%	○：100%
	生徒一人一人の能力を引き出す就労支援	就職決定率100%	○：100%
	外部講師を招聘し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高める。	1回以上実施	○：実施
	第2学年でインターンシップを実施する。また、教員で各インターンシップ先の企業訪問を実施する。	1人1社以上参加	○：実施 新規企業開拓
	工業系、電気系大学と連携した出前講義	1回以上実施	×：未実施
	地域のものづくり産業と連携した進路ガイダンスの実施	年1回以上	○：1回実施

国家資格の合格	電気工事士（第一種、第二種）	20名以上	○：20名以上合格
	工事担任者(DD3種、AI3種等)	5名以上	×：0名
各種検定	英語検定への受検	10名以上	×：8名受検
	計算技術検定への受検	100名以上	×：100名以下
	情報技術検定への受検	50名以上	×：50名以下
各種制度の認定	ジュニアマイスター顕彰制度	各科1名以上	△：ブロンズ表彰生徒

エ 規範意識の向上と良好な人間関係構築

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
生活指導の充実	頭髮服装指導	年3回以上	△：各学期実施
	いじめ・暴力行為・自他生命の尊重を目的とした全校集会や学年指導	年3回以上	○：各学期実施
	SNS使用の指導（全校集会）	年3回以上	△：各学期実施
基本的生活習慣の確立	○登校時の校門指導（皆勤者の増加）	各クラス5人以上	△：皆勤者全体で20人
	○粘り強い遅刻指導（1日当たりの平均遅刻者数）	10人以下	×：15名以上
教育相談体制の確立	スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターと連携した教育相談委員会を実施する。	年3回以上	○：3回以上実施
中途退学者の未然防止	外部関係機関と連携し、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を行い、非行防止や犯罪被害の防止に取り組む。	中途退学者0	×：5人

オ 特別活動・部活動の活性化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
オリンピック・パラリンピック教育推進	各ボランティア活動へ積極的に参加させ、自発的な貢献力を育成する。	年3回以上	×：未実施
パラリンピック競技の理解	障がい者スポーツ選手の招聘	年1回以上	×：未実施
部活動の活性化	各種競技大会・コンテスト等への積極的な参加を促し、入賞体験等を通じて自己肯定感や達成感を味あわせる。	各部年2大会回以上参加申し込み	△：各部公式戦参加あり
	文化・スポーツ等特別推薦を実施し、部活動に意欲ある生徒を確保する。	加入率80%以上	×：72%
	生徒対象の熱中症防止研修等を実施し、安全指導の徹底を図る。	重大事故0	○：重大事故0

カ 生涯にわたる心身の健康の保持増進

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
学校保健計画に基づき、生徒の心身の関わる健康づくりの推進	薬物乱用防止教室	年1回以上	○：実施
	感染症等の注意喚起と情報発信	適宜実施	○：適切に実施
	食物アレルギー等に関する校内研修を実施し、緊急時の組織体制の確立	年間1回以上	○：適宜実施
	感染症予防ガイドラインの校内研修	年間1回以上	○：適宜実施

キ 専門高校の魅力を発信する広報活動と生徒募集対策

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：×
学校の魅力を効果的に発信する広報活動の推進と生徒募集対策の充実	在校生による母校訪問	1年生30名以上	○：実施（3年生）
	ホームページからの情報発信	週1回以上	○：週1回
	電気科・電子科・情報技術科を分かりやすく解説した学校案内の作成	7月末までに完成	○：7月末完成
	学校説明会	各3回以上	○：全て実施
	授業公開		×：2回実施
	体験入学		×：2回実施
	小学生工作体験教室	年1回以上	○：実施
	わくわくどきどき工作スタジオ		
	中学校の教職員や塾教員を対象にした学校説明会・見学会	年1回以上	○：実施

ク 学校課題解決に向けたチーム力の強化

重点目標	方策及び各資格・検定	数値目標	達成：○ 未達成：×
課題解決に向けたチーム力の向上とチーム効力感の情勢	服務事故の防止や教育課題等を目的とした校内研修	年3回以上	○：3回実施
	個人情報の管理徹底を目的とした校内研修	年2回以上	○：2回実施
	定時制課程との協働体制を推進する各種連絡会の実施	随時	○：適宜実施
地域とのパートナーシップの確立	都立学校開放事業、東部オープンフェスタ、地域の南千住祭り、保育・障がい者施設等のボランティア活動	年5回以上	△：3回実施
ライフ・ワーク・バランスの推進と業務の効率化	企画調整会議の資料を有効活用した職員会議の運営により、資料作成業務を縮減 閉庁日の設定や計画的な年休取得	在校時間月60時間超えの教員ゼロ	×：時間超過勤務教員あり ○：閉庁日実施